

令和5年度 第2回市政モニターアンケート  
(仮称)国際センター駅北地区複合施設における  
中心部震災メモリアル拠点事業に関する  
アンケート調査報告書

令和6年1月  
まちづくり政策局  
防災環境都市推進室

# 1. 調査の概要

## (1) 調査の趣旨

仙台市では、これまで検討を進めてきた中心部震災メモリアル拠点と音楽ホールについて、複合施設として整備する方針を固め、令和5年7月に施設の基本的な方向性を定めた基本構想を策定したところです。

今回、複合施設における中心部震災メモリアル拠点の事業や運営の具体的なあり方について検討を進めるにあたり、皆さまのご意見を参考にさせていただくため、本アンケートを実施するものです。

※次項に「用語解説」を記載

(2) 調査期間 令和5年9月27日から10月13日まで

(3) 調査対象 令和5年度市政モニター397名

(4) 調査方法 郵送及びインターネットによる無記名式調査

(5) 有効回答票 356 (回答率 89.7%)

## (6) 集計結果の留意事項

- ・回答割合については、小数点第2位で四捨五入しているため、回答割合の合計が100%とならない場合がある。
- ・前後の設問で矛盾する回答など、内容に誤りが認められた場合は無効とする。
- ・複数選択の設問では、設問上の回答数上限を超えた回答も有効回答とする。
- ・回答割合は、設問項目ごとの回答数を有効回答者数（n）で除したものである。
- ・自由記載方式の回答については、同趣旨のものをまとめ、主なものを掲載している。なお、表現を統一するために、句読点や文末の表現等を一部修正して掲載している。
- ・本調査に関しては、総務局広報課・都市整備局都市景観課と合同で実施しているため、次の設問番号を本報告書の対象とする。

【対象となる設問：問1～4、問27～42】

## 【用語解説】

### ☞ 中心部震災メモリアル拠点

東日本大震災をはじめとする過去のさまざまな災害の経験と教訓から、未来の災害を乗り越える知恵や術（すべ）を生み出し、日常生活や社会システムへその知恵や術を定着させていく「災害文化の創造拠点」を目指しています。

### ☞ 災害文化

「災害は発生するものと認識した上で、災害が起きてもそれを乗り越える術を持った社会文化」を意味します。仙台市では、防災・減災に関する取組や仕組み、伝承活動、防災教育などのほか、生活様式や行動様式、音楽や文学などの文化芸術活動、思想、哲学など幅広いジャンルを含むと捉えています。

### ☞ 音楽ホール

生の音源の響きを重視した 2,000 席規模の大ホールほか 300～500 席程度の小ホールを備え、プロやアマチュアの垣根なく文化芸術の創造を支援する「文化芸術の総合拠点」を目指しています。

東日本大震災からの復興過程で、音楽をはじめとする文化芸術が力を発揮したことを受け、音楽ホール整備に向けた機運が高まりました。このため、「復興の過程で明らかとなった文化芸術力を社会に生かす拠点」を基本方針の柱の 1 つとしています。

### ☞ 複合施設（現在は「(仮称) 国際センター駅北地区複合施設」と呼んでいます。)

「人・文化・まちを育む創造の広場～文化芸術と災害文化がつなぐ 人と人、過去と未来、仙台と世界～」を基本理念とし、誰もが気軽に訪れて文化芸術と災害文化に触れ、交流することで創造的取組が生まれる施設、仙台オリジナルの都市文化を発信し、まち全体に魅力と活気をもたらす施設となることを目指しています。中心部震災メモリアル拠点と音楽ホールの連携・協働事業の推進も重視します。開館は、どのような整備手法をとるかにもよりますが、8 年後の令和 13 年度（2031 年）を見込んでいます。

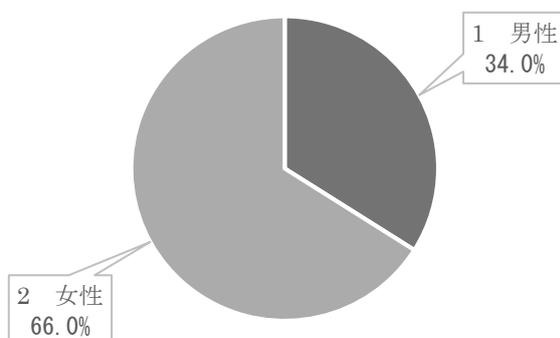
## 2. 調査結果

### <1>回答者の属性

問1 あなたの性別を教えてください。

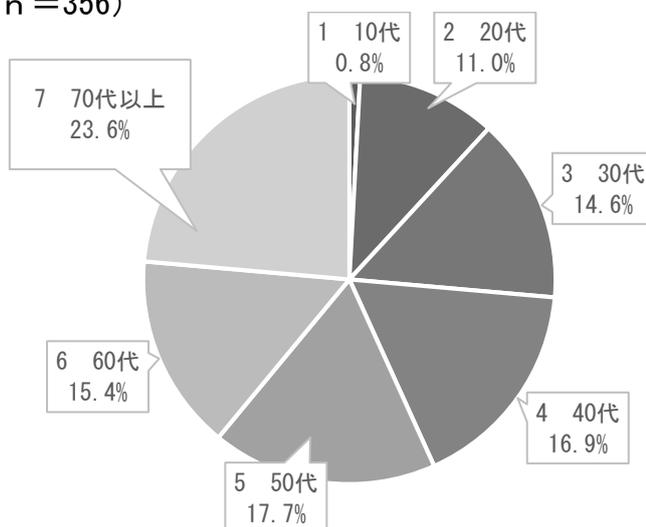
※現在の社会生活上の性別を教えてください (n=356)

選択肢	回答数	割合
1 男性	121	34.0%
2 女性	235	66.0%
3 その他	0	0.0%
合計	356	



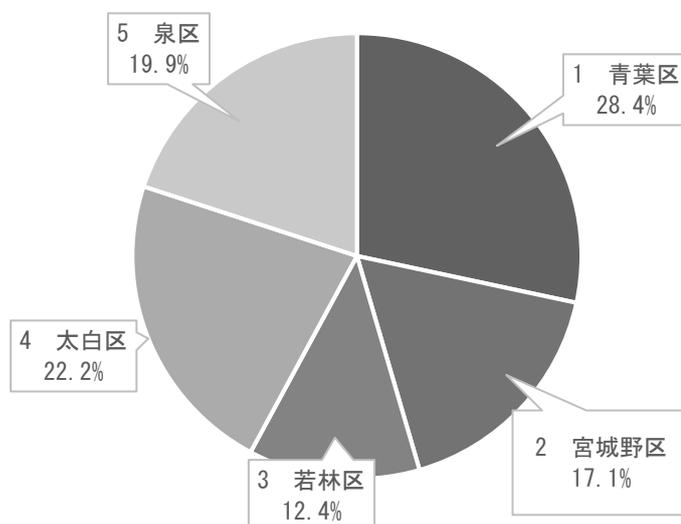
問2 あなたの年齢を教えてください。(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 10代	3	0.8%
2 20代	39	11.0%
3 30代	52	14.6%
4 40代	60	16.9%
5 50代	63	17.7%
6 60代	55	15.4%
7 70代以上	84	23.6%
合計	356	



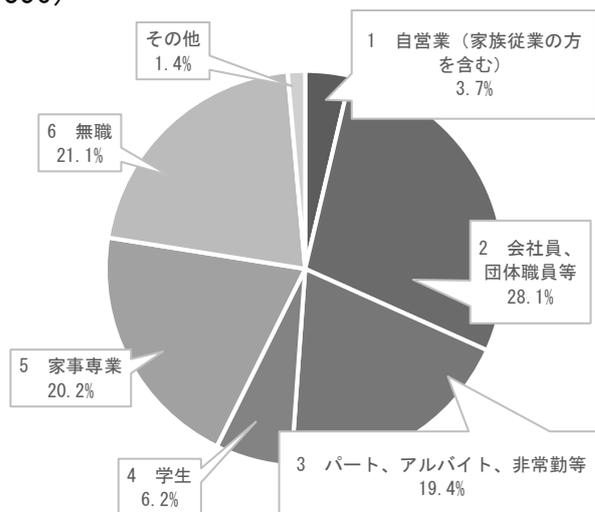
問3 あなたの居住区を教えてください。(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 青葉区	101	28.4%
2 宮城野区	61	17.1%
3 若林区	44	12.4%
4 太白区	79	22.2%
5 泉区	71	19.9%
合計	356	



問4 あなたの職業等を教えてください。(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 自営業(家族従業の方を含む)	13	3.7%
2 会社員、団体職員等	100	28.1%
3 パート、アルバイト、非常勤等	69	19.4%
4 学生	22	6.2%
5 家事専業	72	20.2%
6 無職	75	21.1%
その他	5	1.4%
合計	356	



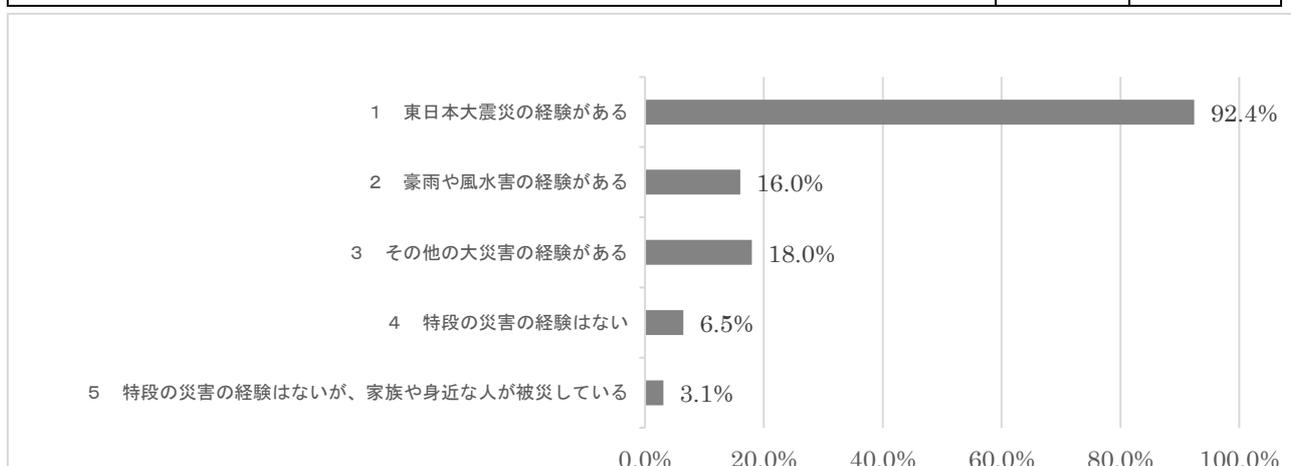
## <2> (仮称) 国際センター駅北地区複合施設における中心部震災メモリアル拠点事業等について

### 災害の経験について

問27 これまで大きな自然災害に遭った経験はありますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 東日本大震災の経験がある (被災地以外でも揺れを経験した方を含みます)	329	92.4%
2 豪雨や風水害の経験がある(浸水や冠水、屋根等の損壊、 がけ崩れなどによる被災など)	57	16.0%
3 その他の大災害の経験がある(災害名 )	64	18.0%
4 特段の災害の経験はない	23	6.5%
5 特段の災害の経験はないが、家族や身近な人が被災している	11	3.1%
合計	484	



問 27 「3 その他の大災害の経験がある」と答えた方の災害名

(モニターによっては複数の災害名を回答しているため、前項の合計回答数と一致しない)

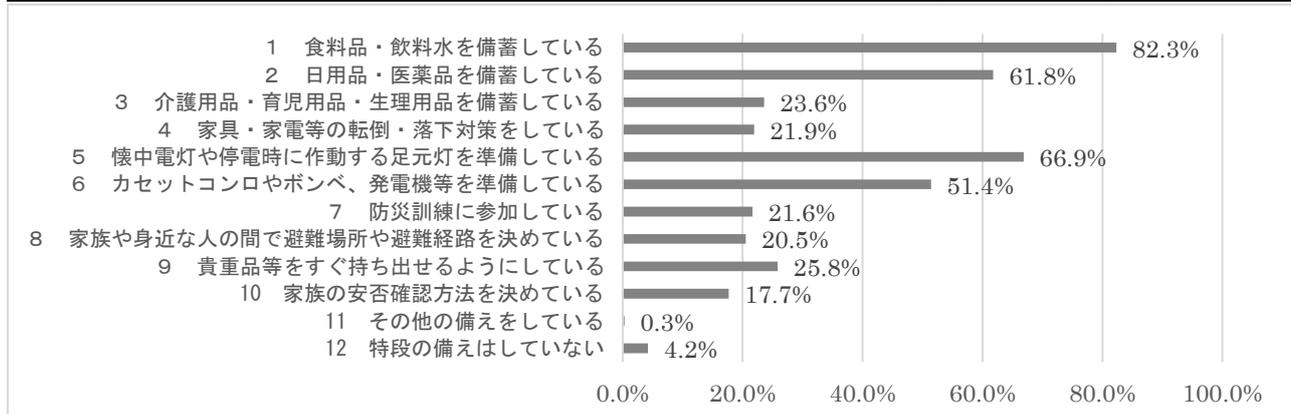
回答内容	回答数	選択肢	回答数
宮城県沖地震	47	昭和 58 年日本海中部地震	1
阪神・淡路大震災	7	新潟県中越地震	1
新潟地震(1964 年)	3	熊本地震(平成 28 年)	1
チリ地震津波	3	平成 12 年有珠山噴火災害	1
昭和55年クリスマス停電	2	平成 15 年宮城県北部連続地震	1
福島県沖地震	1	1961 年長岡地震	1
		合計	69

**災害に対する備えについて**

問 28 災害に備えて、どのような対策をとっていますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。(n=356)

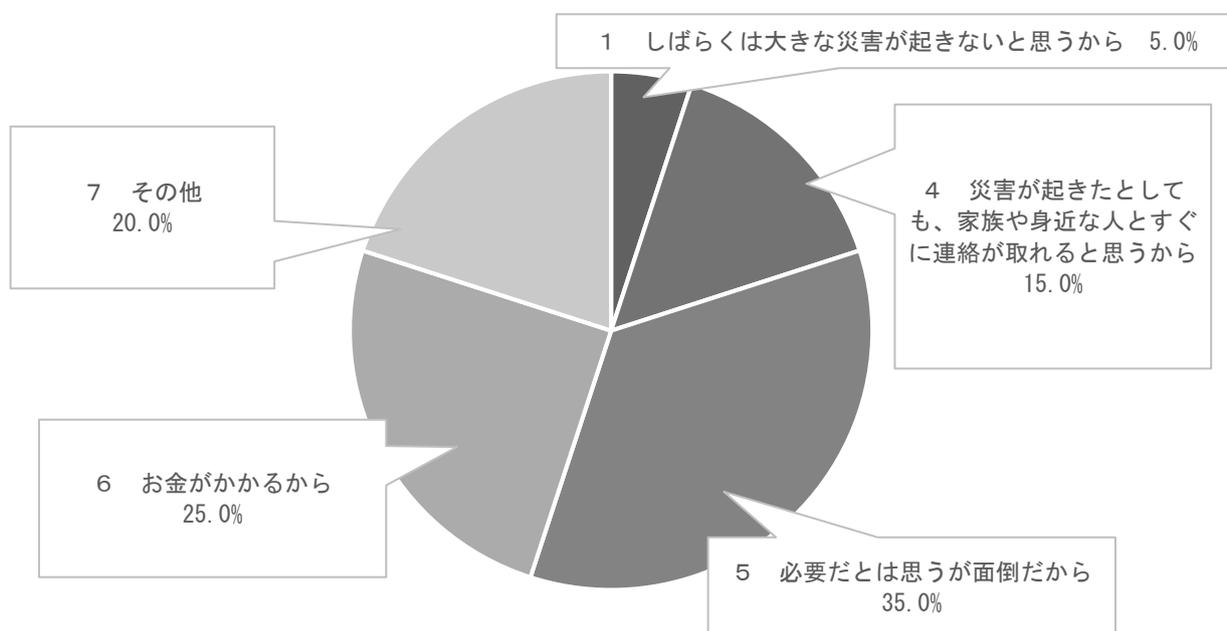
選択肢	回答数	割合
1 食料品・飲料水を備蓄している	293	82.3%
2 日用品・医薬品を備蓄している	220	61.8%
3 介護用品・育児用品・生理用品を備蓄している	84	23.6%
4 家具・家電等の転倒・落下対策をしている	78	21.9%
5 懐中電灯や停電時に作動する足元灯を準備している	238	66.9%
6 カセットコンロやボンベ、発電機等を準備している	183	51.4%
7 防災訓練に参加している	77	21.6%
8 家族や身近な人の間で避難場所や避難経路を決めている	73	20.5%
9 貴重品等をすぐ持ち出せるようにしている	92	25.8%
10 家族の安否確認方法を決めている	63	17.7%
11 その他の備えをしている	1	0.3%
12 特段の備えはしていない	15	4.2%
合計	1417	



【問 28 で「12 特段の備えはしていない」と答えた方にお聞きします】

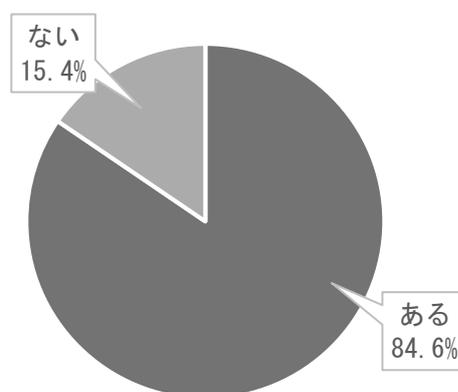
問 29 その理由について教えてください。(n=20)

選択肢	回答数	割合
1 しばらくは大きな災害が起きないと思うから	1	5.0%
2 家族や身近な人の周りでは、災害が起きないと思うから	0	0.0%
3 災害が起きたとしても、安全だと思うから	0	0.0%
4 災害が起きたとしても、家族や身近な人とすぐに連絡が取れると思うから	3	15.0%
5 必要だとは思いますが面倒だから	7	35.0%
6 お金がかかるから	5	25.0%
7 その他	4	20.0%
合計	20	



問 30 災害について家族や身近な人と話し合ったことはありますか。(n=356)

選択肢	回答数	割合
ある	301	84.6%
ない	55	15.4%
合計	356	

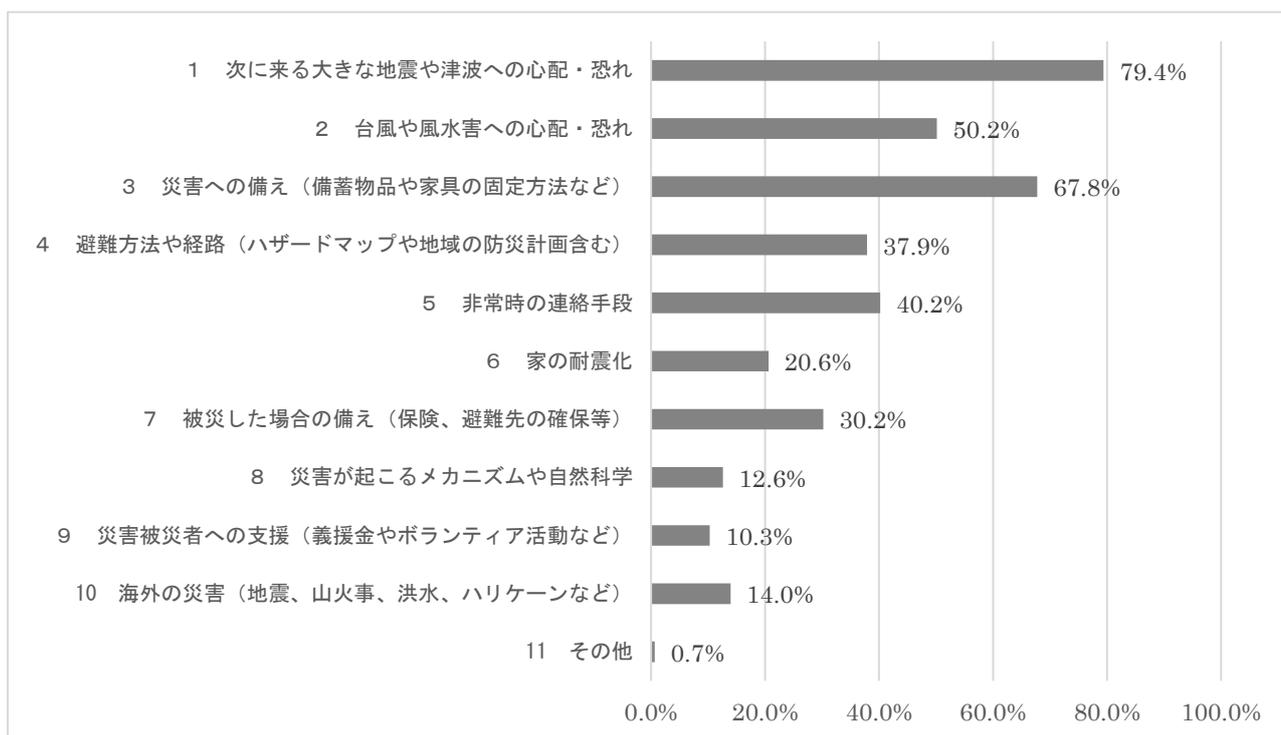


【問 30 で「1 ある」と答えた方にお聞きします】

問 31 話し合った内容はどのようなものですか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。(n=301)

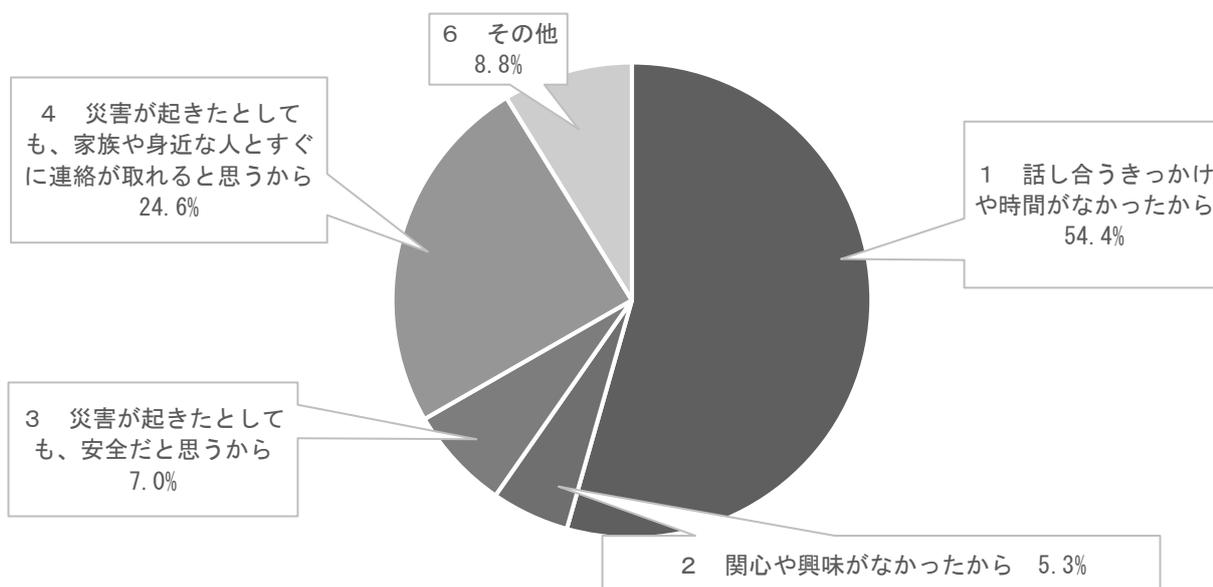
選択肢	回答数	割合
1 次に来る大きな地震や津波への心配・恐れ	239	79.4%
2 台風や風水害への心配・恐れ	151	50.2%
3 災害への備え(備蓄物品や家具の固定方法など)	204	67.8%
4 避難方法や経路(ハザードマップや地域の防災計画含む)	114	37.9%
5 非常時の連絡手段	121	40.2%
6 家の耐震化	62	20.6%
7 被災した場合の備え(保険、避難先の確保等)	91	30.2%
8 災害が起こるメカニズムや自然科学	38	12.6%
9 災害被災者への支援(義援金やボランティア活動など)	31	10.3%
10 海外の災害(地震、山火事、洪水、ハリケーンなど)	42	14.0%
11 その他	2	0.7%
合計	1095	



【問 30 で「2 ない」と答えた方にお聞きします】

問 32 その理由について教えてください。(n=57)

選択肢	回答数	割合
1 話し合うきっかけや時間がなかったから	31	54.4%
2 関心や興味がなかったから	3	5.3%
3 災害が起きたとしても、安全だと思うから	4	7.0%
4 災害が起きたとしても、家族や身近な人とすぐに連絡が取れると思うから	14	24.6%
5 家族や身近な人の周りでは、災害が起きないと思うから	0	0.0%
6 その他	5	8.8%
合計	57	



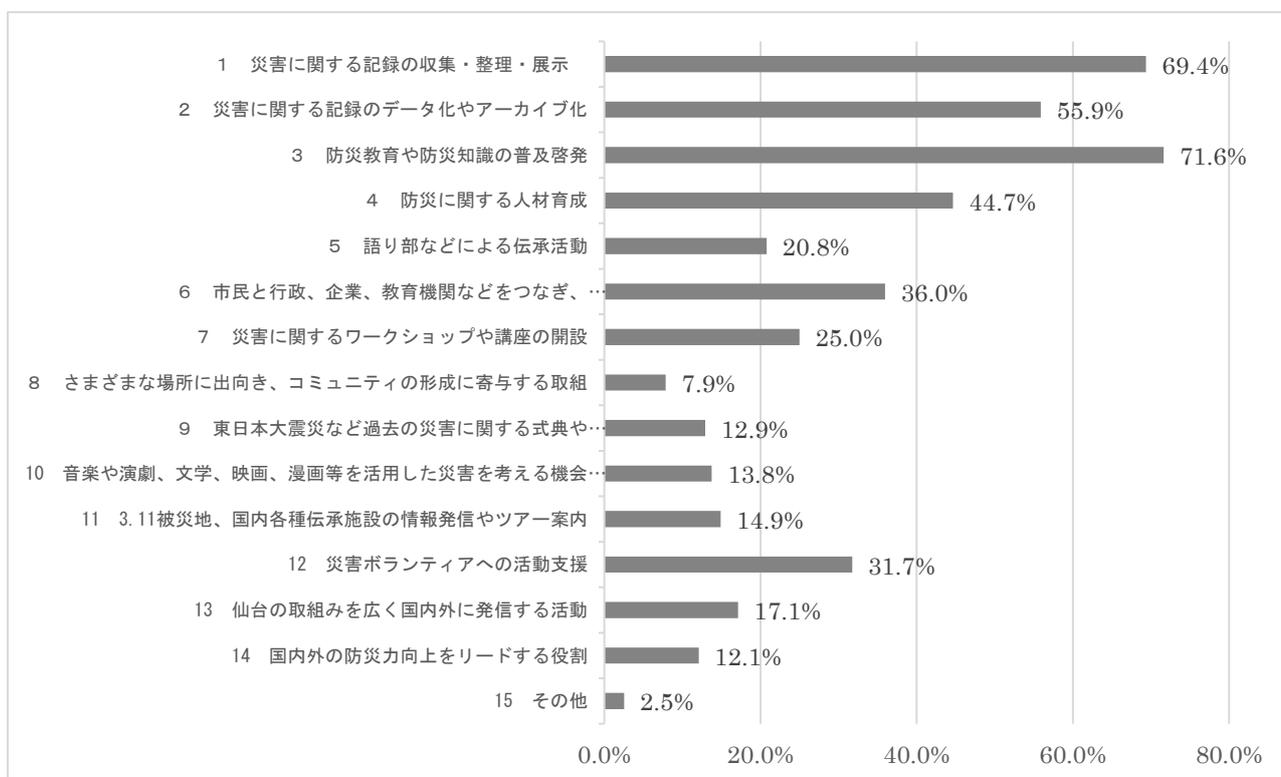
### 中心部震災メモリアル拠点について

問 33 中心部震災メモリアル拠点は、「忘れたころにやってくる」災害に備えるため、東日本大震災をはじめとする災害の記憶を呼び起こし続けながら、市民や企業の皆さま、教育機関と連携し、災害を乗り越える術や知恵の創造・更新・定着を推進する拠点を目指します。

また、東日本大震災被災地における最大都市として、復興に関する知見を広く国内外に発信する役割を担います。

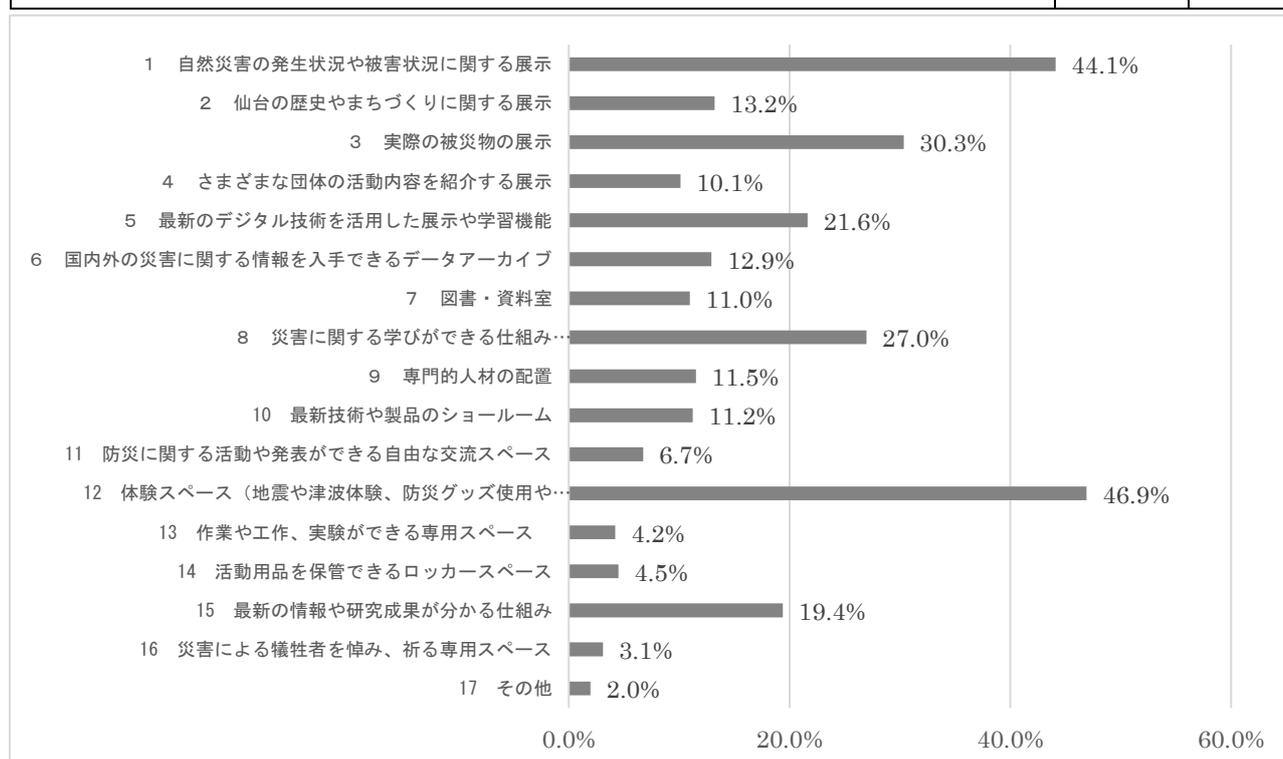
そのために、中心部震災メモリアル拠点が行う活動として大切だと思うものを5つ選んでください。(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 災害に関する記録の収集・整理・展示	247	69.4%
2 災害に関する記録のデータ化やアーカイブ化	199	55.9%
3 防災教育や防災知識の普及啓発	255	71.6%
4 防災に関する人材育成	159	44.7%
5 語り部などによる伝承活動	74	20.8%
6 市民と行政、企業、教育機関などをつなぎ、地域課題の解決を行う活動	128	36.0%
7 災害に関するワークショップや講座の開設	89	25.0%
8 さまざまな場所に出向き、コミュニティの形成に寄与する取組	28	7.9%
9 東日本大震災など過去の災害に関する式典やメモリアルイベント、メモリアルコンサート	46	12.9%
10 音楽や演劇、文学、映画、漫画等を活用した災害を考える機会の提供	49	13.8%
11 3.11 被災地、国内各種伝承施設の情報発信やツアー案内	53	14.9%
12 災害ボランティアへの活動支援	113	31.7%
13 仙台の取組みを広く国内外に発信する活動	61	17.1%
14 国内外の防災力向上をリードする役割	43	12.1%
15 その他	9	2.5%
合計	1553	



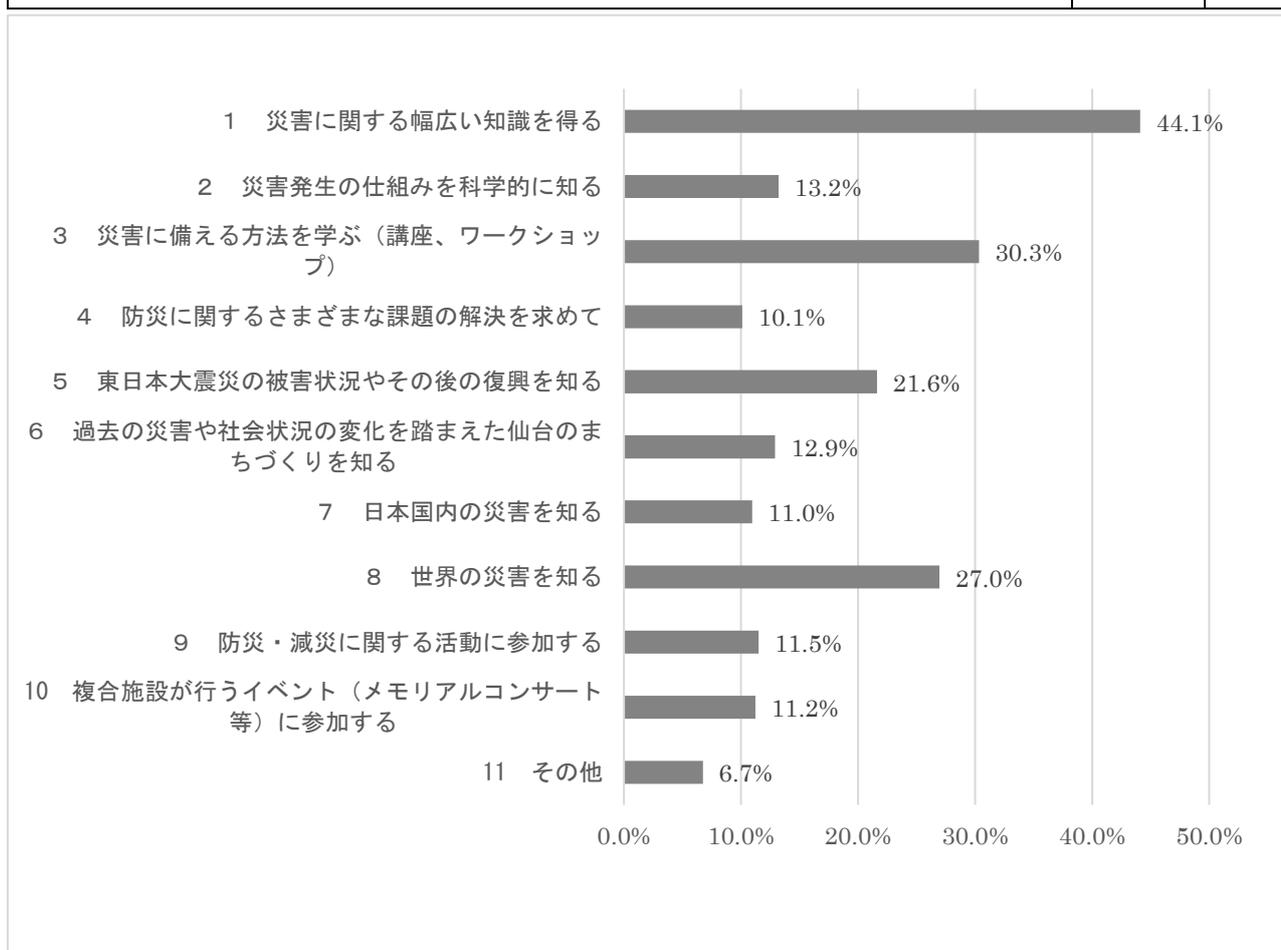
問 34 中心部震災メモリアル拠点で充実させてほしい機能やスペースを3つ選んでください。(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 自然災害の発生状況や被害状況に関する展示	157	44.1%
2 仙台の歴史やまちづくりに関する展示	47	13.2%
3 実際の被災物の展示	108	30.3%
4 さまざまな団体の活動内容を紹介する展示	36	10.1%
5 最新のデジタル技術を活用した展示や学習機能	77	21.6%
6 国内外の災害に関する情報を入手できるデータアーカイブ	46	12.9%
7 図書・資料室	39	11.0%
8 災害に関する学びができる仕組み(専門家や支援員がいる学習室など)	96	27.0%
9 専門的人材の配置	41	11.5%
10 最新技術や製品のショールーム	40	11.2%
11 防災に関する活動や発表ができる自由な交流スペース	24	6.7%
12 体験スペース(地震や津波体験、防災グッズ使用や保存食試食、避難所体験など)	167	46.9%
13 作業や工作、実験ができる専用スペース	15	4.2%
14 活動用品を保管できるロッカースペース	16	4.5%
15 最新の情報や研究成果が分かる仕組み	69	19.4%
16 災害による犠牲者を悼み、祈る専用スペース	11	3.1%
17 その他	7	2.0%
合計	996	



問 35 あなたが中心部震災メモリアル拠点を訪れるとすれば、その目的はどのようなものがあると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(n=356)

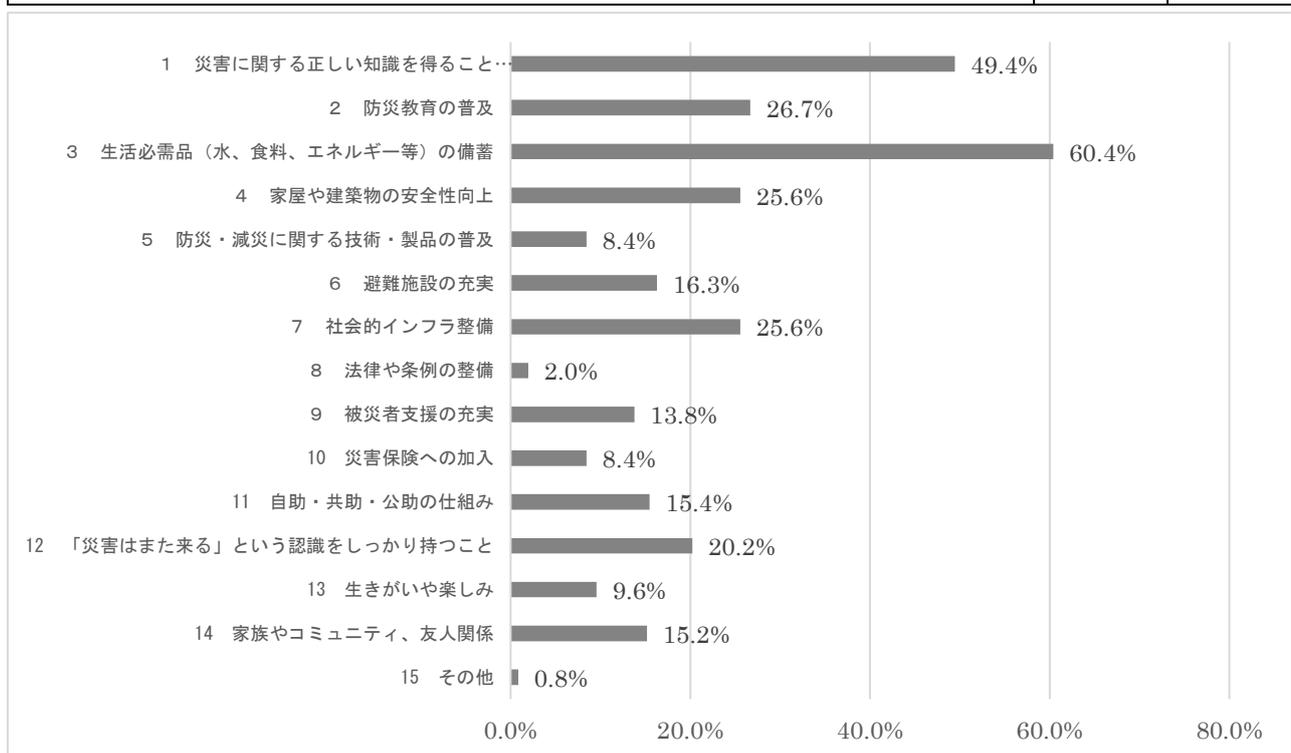
選択肢	回答数	割合
1 災害に関する幅広い知識を得る	157	44.1%
2 災害発生の仕組みを科学的に知る	47	13.2%
3 災害に備える方法を学ぶ(講座、ワークショップ)	108	30.3%
4 防災に関するさまざまな課題の解決を求めて	36	10.1%
5 東日本大震災の被害状況やその後の復興を知る	77	21.6%
6 過去の災害や社会状況の変化を踏まえた仙台のまちづくりを知る	46	12.9%
7 日本国内の災害を知る	39	11.0%
8 世界の災害を知る	96	27.0%
9 防災・減災に関する活動に参加する	41	11.5%
10 複合施設が行うイベント(メモリアルコンサート等)に参加する	40	11.2%
11 その他	24	6.7%
合計	711	



問 36 日本は災害大国と呼ばれています。仙台においても宮城県沖地震や長町-利府断層地震などの発生の可能性があり、さらに近年では台風や線状降水帯の発生に伴う大雨被害の増加、最高気温の上昇など急激な気候変動に伴う災害が多々発生しています。その中で安全に、心豊かに生きる上で必要と感ずることを3つ選んでください。

(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 災害に関する正しい知識を得ること(過去のデータや発生の仕組み)	176	49.4%
2 防災教育の普及	95	26.7%
3 生活必需品(水、食料、エネルギー等)の備蓄	215	60.4%
4 家屋や建築物の安全性向上	91	25.6%
5 防災・減災に関する技術・製品の普及	30	8.4%
6 避難施設の充実	58	16.3%
7 社会的インフラ整備	91	25.6%
8 法律や条例の整備	7	2.0%
9 被災者支援の充実	49	13.8%
10 災害保険への加入	30	8.4%
11 自助・共助・公助の仕組み	55	15.4%
12 「災害はまた来る」という認識をしっかりと持つこと	72	20.2%
13 生きがいや楽しみ	34	9.6%
14 家族やコミュニティ、友人関係	54	15.2%
15 その他	3	0.8%
合計	1060	



問 37 中心部震災メモリアル拠点に関するご意見・ご要望等がございましたら、自由に記載してください。(以下回答)

建物建てて終わりではなく、意味のある建物にしてほしい。なんの為に建てるのか、必要な建物なのか… ワークショップや、講座で、災害が起きた時にどう対処したらよいか、皆が訓練、知識が必要だと思うので学ぶ場があるといいと思う。
立地・規模・大変恵まれた環境だと考えます。
利用しやすい、魅力のある施設にしてほしい。
原爆ドームのような、建物ではなくとも何か現物が象徴のひとつとしてあると、今後時代を越えて見る人たちが言葉や文字では得られない感じるものがあると思います。
交通機関は大丈夫ですが、歩きで訪れる方法として、専用の橋を考えます。昔から付近に住んでいますが、西公園は素晴らしいです。しかし身体障害者にとって川内側に行くには遠回りです。広瀬通りは、車優先ですから、健常者にはいいかも知れませんが、ユニバーサル的な設計を考える必要があるでしょう。しかも仙台はユニバーサルな通りがまだまだ少ないです。
戦災復興会館のようにホールや会議室での使用がメインとなり、経年での形骸化がないように複合施設として、より立ち寄りやすい拠点にしてほしいです。
音楽ホールに力を入れてほしい。
自助・共助・公助の仕組みだけでなくお互いどのような協力関係が築けるのなどの話し合いが必要。
建設時は最新鋭、最先端のものに目が行きがちですが、お金をかけずとも、工夫次第で集客可能です。長期視点での建設計画を検討してください。
本当に必要な物だけを展示してほしいです。
いずれ必ず風化するものなので、風化することを前提とした伝承や文化継承に取り組んでほしい。
今回初めてこの名称を知りました。取り組みは良いと思うので一般の方にも周知されるよう期待します。
被災経験を知るだけでなく、災害が起こったときに、生き残る方法を具体的に分かりやすく解説してほしい。
単なる展示会場となることがないよう、いつまでも市民の心に存在し続ける施設となるよう運営をしていただきたい。
東日本大震災を忘れず震災を知らない世代にも継承していける施設になってほしい。
子どもも大人も楽しみながら災害について学んだり出来る設備やイベントも取り入れてほしい。
高齢者が増えているので訪れやすい動線を希望します。
多くの方が利用できるよう、市民は数年に1度でも交通費を含め、無料で利用できるとよい。防災の意識改革には、絶え間なく情報の更新が必要だと思う。
一度ではなく何度でも訪れたいと思われる工夫が必要だと思うため東日本大震災の被災状況やデータの展示はある程度必要だと思うが、それだけではなく未来に向けてより安全に心豊かに生きるために市外、県外、国外の方が訪れても自分事と捉えることができる学びのある施設になるといいなと思う。そのためには情報は古くなつては意味がないと思うので東北大学などと連携し最新の研究データや例えばインフラ、避難経路など子どもから高齢者まで分かりやすい展示を期待したいと思う。
仙台城址の石垣整備と崩れても大丈夫なように、道路の拡張をしてほしい。
展示施設は、不要です。災害や戦争が起きた時に、活用できる施設にし、天下りや、余剰職員の勤務先にしないようにすべきです。
駐車場を拡充してほしい。

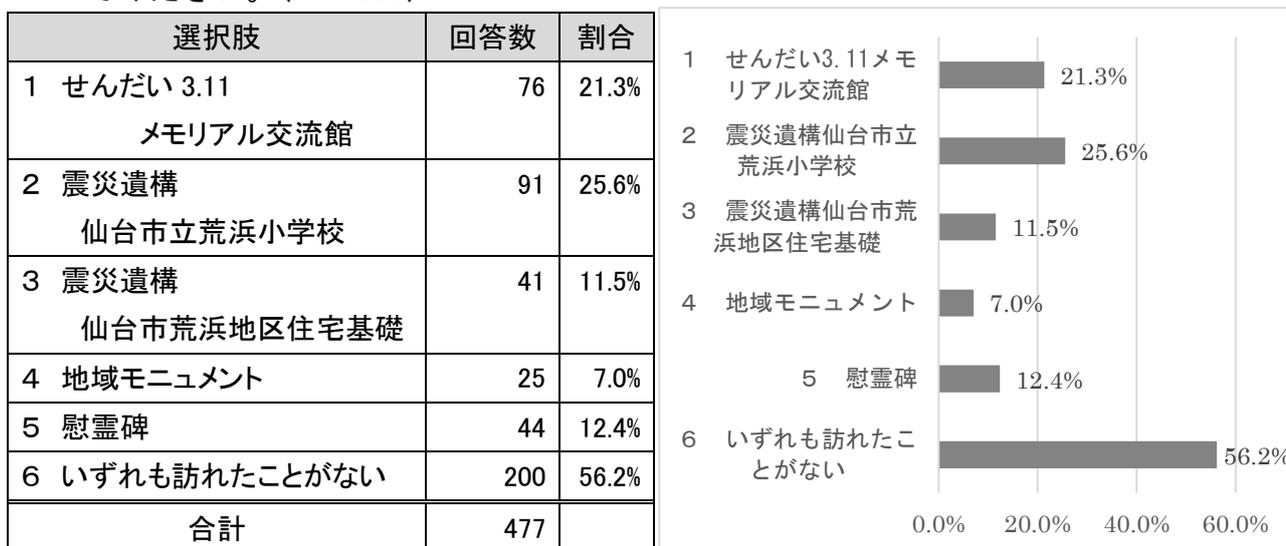
<p>震災の記憶が風化されないよう、学校の校外学習などで利用できるような施設にしていきたい。(死者数、行方不明数、県内のどの部分まで津波が来たかなど)子どもたちにどう伝えていくか、写真や動画多め、実物を展示した方が百聞は一見にしかず。また、海外からの旅行者にも訪れてもらえるよう、外国語表記を必須にしていきたい。震災当時、国内からの支援や、海外からの支援があったこと、地域内での人と人との助け合いがあったこと、その当時感動しました。それがわかる展示もしていきたい。</p>
<p>中心部震災メモリアル拠点へ出向く機会があれば、防災意識は高まると思う。知るうえでのきっかけ作り(イベント開催など)を行ってほしい。紙面やテレビなどを通してだけでは、日常で自分ごととして捉えにくい。実際に見聞きして初めて、関心が高まり、行動に直結すると思う。</p>
<p>沿岸地域にも多くの遺構、展示スペースがある中で仙台に作る必要性を全く感じない。震災にのみ焦点が当たっており、将来的に危機的な状況になるだろう気候変動に対する環境配慮、それに向けた認識の変化も促せる施設にしてもらいたい。どのようなケースであれ、箱モノをつくるのであれば。</p>
<p>国内外に発信する拠点とするためには、ネーミングも重要です。英語表記も同時に考えた方が良いです。「中心部」が気になります。公募してはいかがですか？</p>
<p>戦災や災害を体験した者として、衰退した身を元気づけたのは音楽であった。しかも文部省唱歌が一番元気づけてくれた。</p>
<p>子どもが学び体験できるものを。地震(揺れ)が体感できるイベントや施設に連れていくと子どもなりに学びがあります。</p>
<p>今日、気候変動に伴う災害は避けられない状況です。少しでも気候変動に対応する取り組み、エコなど身近なところから対応するしかないと思います。そこで行政は先頭に立ってリーダーシップを発揮していただきたいと思います。</p>
<p>年中無休にしてほしい。</p>
<p>地域での活動には高齢化が進む中で人材不足が見られている。自助共助にも限界があるため、公助の強化は必要であると思います。共助するための支援も大事だと思います。</p>
<p>災害の種類(地震、水害等)別にケースバイケースでのいざという時に、端的な安全確保の方法のシミュレーション体験などが出来るブースの開設が重要だと思う。(避難の仕方のメリット・デメリットなど)</p>
<p>メモリアルより災害後にお金を使ってほしい。まだ災害はあるから。</p>
<p>避難場所、スペースの十分な確保が必要。</p>
<p>東日本大震災を経験してから、防災や備蓄への意識が高まりましたが、恐怖心が強く中心部震災メモリアル拠点に足を運ぶまでには至りません。私のように心の復興が遅い人もいると思うので、心のケア等をテーマにした講座等があれば参加してみたいです。</p>
<p>この拠点の目的は今の仙台、宮城、日本に生きる人々のためでもあるが、これから50年・100年先に生きる人々のために残す物であると思っています。何を残さなければいけない事なのか、未来の人々は何が必要と思うのか、しっかりと考え、若い人の意見や考えを傾聴し聞き入れることを切に願います。</p>
<p>近年、地震の恐怖に加え、線状降水帯や危険な酷暑など、気候がもたらす大規模災害が多発している。これらの災害は、毎年発生することを肝に据え、対策として簡素で分かり易いマニュアルが必須です。災害に備え貯えも重要です。</p>
<p>どうして今？という気はしました。ただ箱を作っておしまいにならないように、楽しめるイベントなども行い持続的に人が来てくれるようなものになってほしいと思います。</p>

<p>災害の恐ろしさを忘れないために、災害にあった時にどう活動したら良いか、役に立ったことなど(ママ友との情報交換や西日本からの無事な友人から物資の調達)を発信できる場もあれば良いと思います。</p>
<p>仙台市のはずれくらいのレベルに住んでいるので、多分利用することはないと思います。拠点と考えているのであれば、有意義な施設になるようにしてほしいと思います。</p>
<p>年月が経ち世代も変わり、用心する気持ちが薄れるので体験できるスペースや手軽に見学できる災害センターのような場を望む。仙台市が広報を通して繰返し「災害はまた来る」と市民が認識するように(メモリアルデイだけではなく常に)バス、電車、市役所内、デパート等でアナウンスする。</p>
<p>いつでも災害に対応できる中心部の(防災・避難等)拠点であってほしい。</p>
<p>これ自体十分認識されていないと感じます。機会あるごとに色々な所や行事でアピールしてもっと市民に認識させてほしいと思います。確かに立派ですが、ほとんどの人が知らないと思います。是非工夫してほしい。</p>
<p>中心部震災メモリアル(荒浜)に関しては申し分ない施設・内容だと思います(周囲の環境も含めて)。</p>
<p>設置後赤字運営となるので計画反対である。既存の施設の有効活用を図るべきである。または、既存施設を廃止統合一本化するなら賛成できる。音楽ホールの建設は絶対反対です。何故ならば楽々ホール、青少年文化センター、戦災復興記念館、西公園にある公会堂、宮城野区役所隣のパトナホール等の入場者数はいつも満席になっていません。やっと経営が成立しているか、赤字運営だと思います。従って今後それ以上3、4倍も観客を動員できるはずがありません。設置後の収支決算を20年に亘ってシュミレーションして下さい。必ずや赤字決算になるはずで。その赤字を市民の税金で穴埋めすることは絶対許可できません。入場券さえ購入できず、日々の生活に追われている方々、生活困窮者や多くの文化に親しみのない方々のことを思うととても賛成致すことはできません。ごく一部の方々のみの享樂のための音楽ホールの建設は市民を代表して声高らかに反対の意思を表明します。直ちに計画を撤回するよう要望いたします。他の公共団体での類似の施設運営が赤字で中止や市税を投入してまでやっと運営していることを認識するならば、高名な方々の計画中止の措置、また直ちに対策を講ずることを期待します。</p>
<p>災害は発生してほしくないが、何時何処で起きるかわかりません。発生した場合、自分を守ることは必要ですが、弱者のこと・共助のことを忘れないでほしい。</p>
<p>特に展示品や内容などは数年で入れ替える(新しい災害のものに)。</p>
<p>災害はどこで起きるか分からないことを改めて皆が共通理解できる施設になればいいと思います。そのために多くの市民が関われるイベントや災害に強い街づくり、困った事があったら助け合えるコミュニティづくりを進める中心になることを願います。</p>
<p>他地区の震災事例を体験できる設備の設置(荒井、荒浜地区の拡大版)</p>
<p>避難施設の人数確保の件で、人数オーバー満員になりましたら後から来た避難者はどこへ行くのか情報がほしい。</p>
<p>メモリアルという言葉は、あの出来事にはあわないと思います。</p>
<p>安全安心な街づくりを行うための様々な情報の発信等をお願いしたい。</p>
<p>将来発生する可能性の地震のことや、展示品等過去の地震災害について説明する専門家を配置すべきと思う(国内外から訪れる人々に、より良く伝えるため)。</p>
<p>心理的支援の仕組み(PTSD、サバイバーズギルト等への対応)。</p>
<p>今の縁に囲まれた環境を大事に残しながら造ってほしいです。また、青葉山一帯のカフェが全て「カフェ モーツァルト」というのはどうでしょうか、違うお店を選ぶべきではないでしょうか。「カフェ モーツァルト」しか仙台にはないのですか？</p>

## 震災メモリアル事業について

問 38 現在、仙台市内のメモリアル・伝承施設として、若林区荒井に「せんだい3.11メモリアル交流館」、荒浜地区に「震災遺構仙台市立荒浜小学校」と「震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎」があります。また、沿岸部各地に地域モニュメントや慰霊碑があります。

以下の中で訪れたことのある場所はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(n=356)



### 「4 地域モニュメント」「5 慰霊碑」の回答

荒浜地区	七ヶ浜
岩沼市千年希望の丘	中野地区地域モニュメント
石巻市南浜津波復興祈念公園	名取市震災メモリアル公園
大川小学校	浪分神社
雄勝病院跡	野蒜駅
女川	野蒜海岸
門脇小学校	東日本大震災原子力災害伝承館
蒲生の慰霊碑	東六郷
気仙沼向洋高	日和山神社慰霊碑
気仙沼市被災地区	藤塚
気仙沼市復興祈念公園	松原海岸
三陸海岸	南三陸モアイ像
七ヶ浜村の海岸	南三陸町震災復興祈念公園
志津川	八乙女の宮城生協の施設
殉難消防士慰霊碑	閑上地区
新地町	陸前高田市
鎮魂の森慰霊碑	

【問 38 で選択肢 1～5 を選んだ方にお聞きします】

問 39 問 38 で訪れた施設等のなかで、印象に残っている展示や活動などを教えてください。（以下回答）

「ありがとう荒浜小学校」と書かれたプレートが窓辺に飾られていて外からそれを目にしたとき、助かった方々の喜びが伝わったと同時に、生きているからこそ「ありがとう」という言葉を誰かに届けられるのだと再認識した。
3月11日にむけて、または当日に行われるいろいろなこと。
荒浜小学校、屋上に避難して全員が助かった教職員の誘導。
荒浜小学校です。過去、現在のことが分かりました。荒浜の人達が帰って話のできる場所があってほしいですね。
荒浜小学校の止まったままの時計。
荒浜地区に住んでいた方の語り部。
荒浜の慰霊碑、倒れたままの墓石、住宅基礎、欠けたままの防風林。
ガイドさんのお話を聞きながら津波にあった教室や車をみるとテレビとは違う印象をもちました。
気仙沼向洋高(各教室、特に4階に流れ込んだ車体(所有者もはっきりしている)同じ4階の軒先の破損部分) 大川小(何故後ろに位置する山、高台に逃げなかったのか。児童「てんでんこ」だったら半数以上助かったのでは?)
施設そのものより、施設周りが何もないので津波のすごさを感じます。
市民一人ひとりあの時は恐かったはず、津波まで来るとは、その噂も恐かった、建物の残がいの写真等、あの日を思い出す。
写真など生々しい展示が多く感動しました。
小学校に行きましたが、まさしく 3.11 の日を思い出します。やはり月日がたっても忘れてはいけませんが、思い出したくない事も、思い出してしまいます。
震災後、家族で縁のある荒浜小学校の周辺を見に行きましたが、松林手前の激変に驚き、小学校内部には入れず。小学校を震災遺構として残したことは見る人にとっては、災害に対する臨場感絶大で、不意に訪れる災害の恐ろしさを知れると思う。
震災前のまち並みを模型で復元した展示が印象に残っている。
外から見ただけで涙が溢れてしまい、近づく事がそれ以上できませんでした。荒浜地区で仕事をしていたこともあり、変わり果てた姿に今も悲しく、辛くなります。でも、震災遺構やせんだい 3.11 メモリアル交流館など、後世に伝える役割を担う場所があることが素晴らしいと感じています。もう少し落ち着いたら足を運びたいです。
建物内部の様子及び周囲の環境を含めて、行き届いたものと思いました。
津波の高さの表示。自分は関東にいて当時はテレビでしか知ることがなかったが、本当にこの高さまで津波が来たと思うと怖い。
亡くなった方の個人名が彫られていて、しかも同じ名字がつづいていたりすると、震災の悲しみ、現実がじわじわ分かる。
昔、石巻にすんでいたので余計石巻に関心がある訳ですが、大川小学校、雄勝は忘れられません。
昔訪れた閑上地区の変化には驚いた。家が一軒も無く、とても衝撃を受けた。津波の高さなどで新たに災害の恐ろしさを感じた。
メモリアル交流館のイラストマップ。
閑上地区の津波前の街並みの模型、一軒一軒名字が記入されていたこと。

慰霊碑で子どもたちが手を合わせる様子。
慰霊碑周辺の樹木が時間と共に成長している様子は元気をもらいました。植樹活動の大切さを感じます。
壊れた消防車。
気仙沼市復興記念公園、モニュメント(祈りの帆)は高台から街を見下ろすことができ、震災時に津波と大火ですべてが焼き尽くした様を脳裏にあったが、復興の街並みを見た時に考え深いものがありました。
石巻市南浜津波復興祈念公園、鎮魂と追悼のモニュメントがすべて荒廃した街に設置され、津波の一瞬の力の怖さが迫る、そんな風景に圧倒された場所でした。
荒浜小学校の2階部分にある柵が津波でひしゃげていたこと。3月11日に風船を飛ばすイベントに参加したこと。
荒浜小学校の震災時そのままの建物の損壊の状況を目の当たりにしショックで印象に残りました。
写真を見ました。当時は自分のことだけで精一杯で周りが見えていなかったのが、初めて知る状況もあり驚きました。
震災時の新聞、震災前後の写真、思い出のメッセージ。
大川小学校の裏山及びそこへ続く道。それぞれの石碑、立地位置、モニュメントではないが蒲生日和山のあった位置など。
地下鉄荒井駅の展示(せんだい3.11メモリアル交流館)。地下鉄で行ける、すぐに見られるというアクセスがいい。
津波の被害にあった南三陸町旧防災対策庁舎を実際に見て、地震の後の津波の脅威を実感しました。
鉄骨を曲げる津波の威力。
八乙女の宮城生協の施設。全国の同業者とのつながりの大切さを感じました。
名取東日本大震災慰霊碑、荒浜観音像、千年希望の丘慰霊碑。
六郷東部地区で活動に参加している皆さん。

## 複合施設整備について

問 40 東日本大震災発災後、音楽をはじめとする芸術活動が被災された方々の日常を取り戻す助けとなったこと、一人ひとりの復興を後押ししたことで、文化芸術の力が再認識されました。そして、災害はまたやって来るからこそ、過去の経験を生かして未来の災害に備える機能を果たす新たな拠点を整備することとしました。両施設の複合整備は、市民が安全に心豊かに暮らしていくための施設であり、仙台市の強みや個性の象徴と考えています。なお、複合施設の建設予定地は、青葉山や広瀬川などの豊かな自然に囲まれており、周辺には宮城県美術館、仙台市博物館、仙台城跡、大学等の文化・歴史・学術資源が集積するエリアとなります。

この複合施設について、期待することなど自由なご意見をお聞かせください。

(以下回答)

文化交流の場、学都、杜の都・・・思い出の地となり仙台に生まれ育ってきたことを誇りに思う。震災も経験しましたが、人との交流で助けられたことも多く、心優しい人々が多い街だと思います。
災害で被災された方々は、音楽をはじめ芸術活動で心が癒されました。ただ受け身だけではなく、自らも音楽その他芸術に参加できれば、なお一層楽しくなると思いますので、皆で参加できるスペースがあれば良いと思います。
季節毎に色々とイベントなどをして多くの市民や観光客にももっと足を運んでもらえる場所にする。

<p>誰もが気軽に行けて、不意に立ち寄っても困らない駐車場のスペースが広くとられていると嬉しいです。</p>
<p>自然豊かな場所にこのような施設を建設するのは 素晴らしい事と思います。隣には国際センターもあり、世界中の人々にせんだいの歴史 また、震災からの復興、歩みなど伝えていく施設になればと考えています。</p>
<p>普通の会社員が勤務後に訪問できる時間帯での営業。コンサートなら 21 時から(パリのように)。東京の森美術館は、夜遅くまで開いており、客もそれなりに入っている。</p>
<p>大いに賛成です。防災を考えるとともに、わたしはユニバーサル的な都市を考えることが必要と考えます。前述の問いにも答えましたが、バリアフリー化でなく、もう少し前進させるユニバーサル的な都市構築が必須と考えます。これこそが「市民が安全に心豊かに暮らす」になるでしょう。ですからファームウェアハードウェア的にもソフトウェア的に検討してください。</p>
<p>その複合施設はぜひ必要だと思います。ただし、いつ来るか分からない災害の為に整備していても、その保全に掛かる維持費が莫大な費用が掛かっては市民への負担が大きくなります。なので、なるべく維持費の掛からない施設をお願いしたいと思います。</p>
<p>博物館、美術館、両方同じ時期の工事や休館をしないでほしい。仙台に越して2年超になるが、博物館にはずっと休館で行ったことがない。また、仙台のような大都市で、どのコンサートホールも非常に古く狭く設備も悪い。文化都市というならば、コンサートホールや施設のトイレをすべて広く、洋式にしてみたい。</p>
<p>国際センター周辺は、あまり飲食店がなく、お茶する場所も少ない。気軽にくつろげるスペースがあったらうれしい。</p>
<p>街中でありながら自然豊かな地域にできるので、自然災害は悲惨で怖いものという暗い気持ちで終わるのではなく、災害と向き合えば乗り越えられると言う明るい気持ちになれるような施設になってほしいです。</p>
<p>国内外からの旅行客はもちろん、何より仙台市民で賑わう場所になってほしいと期待しております。少しでもスペースを活用してイベントを開催していただければ市民の活動の機会が増えるかと思えます。周りの施設と合同でイベントを開催されることも期待しております。</p>
<p>青葉山や広瀬川周辺は、緑豊かで学術資源もあり、杜の都仙台の魅力が存分に感じられるエリアだと思います。ここに新たな複合施設ができることは、魅力がひとつ増えることになりまして、県内外からの集客も見込めると思っています。子どもからお年寄りまで、楽しく学びながら体験できる施設になることを期待します。また、この周辺にはカフェや飲食店が少ないので、飲食店の充実も期待したいです。</p>
<p>美術作品やコンサート、さまざまな視点で震災のことを考えられるイベントや、市民にもそれにまつわる作品を公募、展示なども出来るスペースがあれば良いと思いました。</p>
<p>国際センターを中心として、アクセスが容易な場所に立地することで、観光客も訪れやすいのではないだろうか。また、研究機関やアーカイブなども設置してほしい。</p>
<p>東日本大震災発災後、音楽をはじめとする芸術活動が被災された方々の日常を取り戻す助けとなったこと、一人ひとりの復興を後押ししたことで、文化芸術の力が再認識されました⇒本当にそうだった？提供者の思い込みでは？後押しされなかった人が沢山いることを忘れてはいませんか？</p>
<p>震災に興味がない人も足を運びきっかけとなるようなイベントを開催してほしい。きっかけがないとなかなか行かないと思うので。仙台駅から行きやすいように、交通の便も整えていただけたらうれしいです。</p>
<p>この場所はこれで大切とは思いますが、橋を渡らないで行ける所も考えておかねば。 政令市の中でも、誰もが静かな時間を過ごすことができる場所として最適な選定だと思います。「未来の災害に備える機能を果たす新たな拠点を整備する」ということで、的を射た複合施設の予定地と考えます。</p>

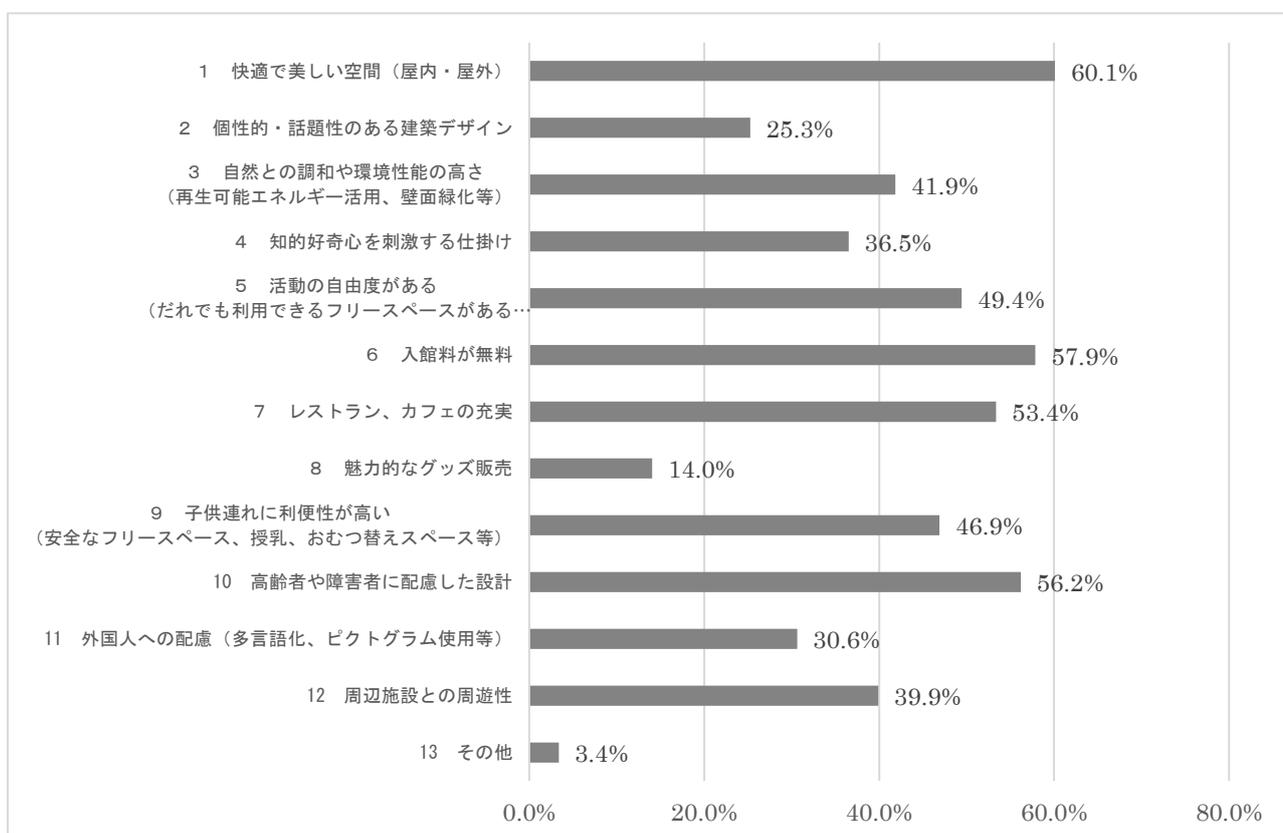
<p>自然の豊かさが損なわれないよう期待します。</p>
<p>仙台市の芸術の発信力はまだまだ弱いように感じています。専門家に限らず市民だれでも鑑賞し、参加できる環境構築を願っています。</p>
<p>子どもの感性を刺激し、興味を持つような施設を期待したい。</p>
<p>複合施設のマンネリ化を防ぎ常に変化のある施設にしてほしい。</p>
<p>日頃は避難訓練や災害、防災についての学びや、市民の憩いの施設として、災害時には備蓄品の配布や情報発信の拠点としていつでも動ける体制をキープできる施設であればと期待します。</p>
<p>実際の生活の中の防災に役立つ施設ではないとただのお金の無駄遣いになると思います。なにが出来るのかわかりませんが、次の災害時にあって良かったと思える施設にさせていただきたいと思います。</p>
<p>市民や県民が各施設へ無料で入場できる日を設けたらいいと思う。</p>
<p>複合施設建設は素晴らしいと思いますが、なかなか青葉山は近くて遠いイメージがあり、行きにくい場所です。</p>
<p>文化芸術もちろん大切ですが、これからの未来を担っていくのは子どもたちです。仙台は周辺地域と比べて、子どものための大型施設がとても少ないと感じています。せつかく立地の良い複合施設となるのならば、子どもがのびのび遊べるスペースもある施設になると嬉しいです。</p>
<p>一般市民が日常的に利用するだけでなく、産学官など専門的な属性の人など、幅広いバックグラウンドの人が利用できる施設となることを期待しています。</p>
<p>市民が文化や仙台市の歴史に触れる場としてだけでなく、関連する文化活動のシナジー創出、スタートアップのような取り組みが生まれ発展していく場としての機能も期待しています。</p>
<p>音楽堂の建設も計画していますが 県と話し合って1箇所を集約してほしい。</p>
<p>地域住民の生活エリアは守られてほしい。</p> <p>荒井駅は通勤通学や保育施設を利用するために訪れる人も多く、イベント時の混雑やゴミ、路上駐車増加、普段利用している駐車場が満車になってしまうなど不便なことが多くて困っている。</p>
<p>音楽ホールの建設は待ち遠しい。コンサートや演劇など 2000 人規模のホールで開催されるイベントが今後仙台でも行われることに大いに期待している。特に仙台フィルはもちろん、オーケストラ、バレエや第九などステージの奥行きが生かせる催しを楽しみたいと思う。地下鉄東西線の国際センター駅に複数階で直結できれば利便性がかなり良く、地下鉄利用者が増えると思われる。また美術館や博物館と複数利用で例えば入場料 100 円引きなどがあれば複数箇所回る方もいるのではと思う。</p>
<p>市外からの観光が増えることを期待したい。市内の学生にとっても学びの場としてより仙台を知れるきっかけになってほしい。</p>
<p>自然災害への備えを忘れないため、風化させないために複合施設は必要と思いますが、建築物は建てるだけでなく、その後の経費もかさみます。次世代に借財を残すようなことのないように、税金だけの運営ではなく民間企業とコラボした施設運営が必要だと思います。</p>
<p>自然と融合した施設建設。東西線と融合したカーボンが出ない施設間交通手段の検討。徒歩や自転車が安全に移動できる道の整備。</p>
<p>ただ単に名目だけの施設にならないようにしてほしい。エリアについては地下鉄の駅近くであり交通の便が良いところではあるが、地下鉄・バス利用して乗り換え等しなければならぬところに居住していると車を利用したいが駐車場が少なく、また料金が高いなど高齢者や障がい者にとっては気軽にとはいかず困難な感じがします。</p>
<p>災害があった時に近くのホールで音楽などの芸術活動など早めに誘致することが市の役割だと思う。</p>

音楽堂は、専門的な施設が必要ですが、他の空間はあまりかっちりとしたいわゆる箱物ではなく、今生きている人も、これから生を受ける人も、過去仙台に住まれた人びとも一緒に、分かち合える空間を持つ施設を望みます。空気がいつも動いているような。
子どもから大人まで興味が持てて何度でも気軽に訪れられるような、テーマパークのような施設になってほしいと思います。震災で大切な人を失った人間の家族は、震災関連の場所はとても気を遣います。テーマパークのような雰囲気だと、遊びに行く感覚で再認識したり学べたりすると思います。
人がよく集まる場所になるでしょうから、交通インフラの整備などをしっかりやっていただき、オーバーツーリズムではありませんが、イベント毎にトラブルが起きないように周辺の整備も併せて行なっていただきたい。
自然豊かな場所での整備とのことで、あまり予算をかけた立派なものよりも自然を利用した手作り感のある魅力的な施設を期待します。
震災を乗り越えた仙台の新しい拠点として、学校の校外学習の場や、旅行者の訪問する場として訪れてほしい。仙台に降り立った旅行者がどのルートで回れば良いか分かりやすくルート提示をしたり、バス会社と提携し体験ツアーなどがあると良い。また市民や子どもが小さい時から気軽に立ち寄れるよう、室内遊び場や屋内遊び場(水遊び場など)、子育て世代が生きやすいエリアにしていただけると、平日の過疎化はなくなると思う。教育機関もおおく、震災も学べて子どもの教育にも良い。財源をかけるのだから賑わっていて当たり前のエリアにしてほしい。
仙台在住の人以外にも、いつどこで災害が起きるか分からないという認識を持ってもらうため、被災経験のある著名人や芸能人を招き講演会を開催し、全国各地から人を集める。
定禅寺通りや駅前再開発と併せて、街全体が「杜の都」として企画してください。これからは「こころ」の時代です。DX・AIの活用と融合し、若い人たちが、のびのびと成長できるように配慮することが大事でしょう。また、地球環境問題への対応も同時に織り込むことも重要です(ゴミの減量化、先進的な対応など)。
せっかくすばらしい施設があっても使用しにくく感じる。エリア内で効率よくまわれる工夫や、子どもたち(幼児や小学生だけでなく中高大生)が楽しめるしかけがあるといいと思う。
音楽、芸術、お笑い、演劇など県内外のエンタメが集まると楽しくなりそうです。
仙台市には子どもが遊べる施設が他県と比べて少ない気がするので、夏の暑い日や冬の寒い日でも安心して遊ばせることができる施設が、できてくれるとうれしく思います。
県美術館など元々その場所で根付いてきた歴史や環境を大切にしてほしい。施設ごとに訪れるとポイントが得られるなど、特典を付与するアプリなどを導入するといいのでは。何度でも訪れたいくなるきっかけや、学ぶ楽しさが得られる機会を作るためにも良いことだと思う。
できれば災害がひどかった場所に整備してほしかった。実感・体感できるようにしてほしいです。
市の施設を使用するとき芸術活動において届け出や使用料のしほりをもっともっと少なくしてほしい。
こういった施設(特に仙台市)は高齢者向けの場合が多い。未来のある若者に興味を持ってもらえるような取り組みが必要。
自転車での移動が多い。つい最近、信号を無視してきた留学生の自転車と信号を守っていた子どもの事故に遭遇。子どもがケガをした。人流が増えることによって周囲の安全面を考えていただきたい。
デザイン重視ではなく、耐震・安全性重視の施設になってほしい。その上で、周辺エリアとの連携、防火機能を有した長期運用できる施設を設計してほしい。小中高生に無料で来てもらえるような仕組み作りをすることで、これからの仙台を担う若者の糧になるスペースにしてほしい。観光バス等が停めていられるスペースを作ってほしい。

<p>市民が安全に心豊かに暮らしていくための施設であるとのこと。音楽のコンサート、落語や寄席、仙台をモチーフにして作られた映画とか本の作家との交わりなどを行うことが良いのではないかと思います。</p>
<p>震災時の物などの展示スペースには事前に”ここから先 地震展示有り”などの一言を入れておいてほしい、心の準備になるので。</p>
<p>規模の大きめのコンサートだけでなく、少人数や発表会など市民が気軽に使えるホールがあれば良い。学校等で使われなくなったピアノなどを活用し置いてもらうとなお、使用しやすい。カフェもあつたら良い。</p>
<p>避難所で聴いた音楽や灯りの消えた星空などが印象に残っています。怖い記憶を呼び起こすだけでなく、日常の大切さ(東部道路を震災間もないころに利用した時の海沿いの灯りの少なさ)を伝えていける、独りよがりではなく有名すぎるのではなく等身大の施設であってほしいと思います。</p>
<p>研究・開発の拠点となってくれたら、より進んでいくのではないかと考えています。</p>
<p>どこからでも行きやすいバスがあるといいな。シニアには車がないと不自由です。タクシー代は値上がりしています。郊外の住人は行くまでが大変です。</p>
<p>藩祖伊達政宗は、文化芸術の一環として登米の能、平泉の薪能、白石の能楽堂等により能楽を奨励・伝承されてきましたが、本拠地仙台市には能楽堂(ホール)がありません。複合施設に取り入れて振興されることを期待します。</p>
<p>近くの生協での大震災のとりくみ、八乙女の生協のウイズでの災害の写真展には行ってみましたが、改めて荒井の方には足を運んでいませんでした。また平和な日々が続いていくと忘れてしまうものですね。あの時のことは分かっているはずなのにと感じてしまいます。こうして市の方から、未来の災害に備えるための活動をしていただくことで、力をもらえる自分です。</p>
<p>複合施設は良いことですが、私達は住まいが宮城野区ですので青葉区青葉山は遠いです。拠点の整備は区ごとに作り、人々が安全安心して暮らせる施設にしてほしいです。</p>

問 41 複合施設全体として、誰もがいつでも気軽に訪れたいくなる施設となるためには、どのような点が重要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。  
(n=356)

選択肢	回答数	割合
1 快適で美しい空間(屋内・屋外)	214	60.1%
2 個性的・話題性のある建築デザイン	90	25.3%
3 自然との調和や環境性能の高さ(再生可能エネルギー活用、壁面緑化等)	149	41.9%
4 知的好奇心を刺激する仕掛け	130	36.5%
5 活動の自由度がある (だれでも利用できるフリースペースがある、飲食可、演奏可能スペースがあるなど)	176	49.4%
6 入館料が無料	206	57.9%
7 レストラン、カフェの充実	190	53.4%
8 魅力的なグッズ販売	50	14.0%
9 子供連れに利便性が高い (安全なフリースペース、授乳、おむつ替えスペース等)	167	46.9%
10 高齢者や障害者に配慮した設計	200	56.2%
11 外国人への配慮(多言語化、ピクトグラム使用等)	109	30.6%
12 周辺施設との周遊性	142	39.9%
13 その他	12	3.4%
合計	1835	



## その他自由意見

問 42 仙台市の震災メモリアル事業や複合整備に関してご意見等ございましたら、自由に記載してください。(以下回答)

地元の人でも近くに住んでいる人でも、何度でも来たくするような施設を期待します。
周遊性を高めるための交通手段の確保(公共交通機関)。
仙台市としての特色を大きく打ち出したものにしてほしい。
人を惹きつけるような展示やイベントを期待します。
震災関連の施設は沿岸部が多く、なかなか足を運ぶ機会も少なかったため、身近にこのような施設ができることは良きことだと思えました。仙台市ならではの創造性に期待しております。
大震災を知らない子どもたちが遊び学べる場所であつたらいいと思います。
過去の記録の保存ではなく、未来に向けた進歩の場となることを期待します。
その他に上げた機能(施設の耐震安全性、災害時の情報集約地としての活用地)を有してほしいし、地下等に備蓄設備や自家発電設備を設ける事で、有事対策本部が即立ち上げられる物に出来たら、仙台の人々が安心して暮らせる環境を整備していけるのではないのでしょうか。
震災関連施設を「特別なもの」ではなく、普段の生活にも溶け込んだもの(地域住民の交流の場など)にしてもらいたい。
被災地として、日本、世界一防災に力を入れている都市となるようこのような取り組みは必要だと思います。当事者だけでなく沢山の方、特に子ども達が防災に関心を持てる施設になってほしいです。
災害を風化させないために、どんな選択肢をしたら生き残る可能性があつたのか?普段から何を備えておけばいいのかを考える機会を提供してほしい。
震災の状況だけでなく、防災の備えについて、これからの明るい未来に向けてのイベントも行ってほしいです。
アイススケートの発祥の地、五色沼を活用してほしい。
議会決定後や完成してからわかるような施設が多いので、市民がわかりやすいようにもっとメディア等で広報してほしい。
今年開催された「花と緑のフェスティバル」は、広い空間が多く、私達の間ではとても好評でした。ナチュラル感が青葉山地域にとっても合っていました。震災メモリアル事業にも、この点を求めたいと思います。
青葉山の歴史、文化を表現できるよう整備してほしい。城がないので復元に近い建物があると、観光客にもっとアピールできると思う。また城跡に行く道なりに伊達政宗の時代の街並みを再現できればと思う。 大町頭辺りを江戸の町並み風にできると楽しいでしょうね。気軽に誰でも立ち寄ることができるショップ、飲食店(ずんだ餅屋さん、和菓子屋さん、さいちのおはぎ)等も立ててほしい。
休日にわざわざ出向くには、優先順位は高くない。魅力的なイベントなどを入り口に、まずは一度でも来てもらうという事に力を注いでほしい。行かなければ、知らない。知らなくても日常困らない。という事を覆す仕掛けが必要。
伝承することが最も重要だが、事業や整備はあくまでも財政に考慮すべきと思う。
心が重くなり過ぎないように、カフェや休憩スペース等、ほっとできる場所があると嬉しいです。カウンセラーや相談員が常駐しているとありがたいです。
以前から言われている通り、箱物のイニシャルコストは補助金の活用で賄えますが、ランニングコストは永続的に市民が負担しなければなりません。全国的に見ても、建設されて経年劣化とともに朽ちていき、集客できない施設もたくさんあります。今後を見据え、身の丈に合った施設計画を望みます。

住民の立場からするとわざわざ震災のメモリアルを見に行く気にはなれない。つまらないので音楽イベントやレストラン、カフェお買い物、物産館などの充実があれば散歩がてらに行ってみようという気になれる。

杜の都にふさわしく、内装には県産材を使った木のぬくもりある空間が良いと思います。大きめの窓からは緑の木々が見ることができたら良いと思う。

日本各地でどこでも起こりえる災害として震災の展示をもとに、また同じような災害が発生した時にどのように避難し、どのように助け合えば、どのような手が必要か学べる施設になってほしい。

戦災復興記念館もありますが、どれほど啓蒙されているのでしょうか。いろいろ盛り込まずにシンプルに避難施設だけでいい。音楽堂も豪華な必要もないし、むしろ無理してまでいらない。

個室(小さい部屋)と震災に強いトイレの確保を検討してほしい。管理が大変になるので、建築物としてのメモリアル事業は考え直してください。

高齢者・身体の不自由な人も気軽に行けるよう、建物の近くまで行けるバスを整えてほしい。イベント時には臨時の本数を増やすなど柔軟な対応を望みます。